

「きさ」小中一貫教育公開研究会

三次市内の小中学校から50名（来賓を含めると58名）の参加があり、10月12日（水）に2年目の「きさ」小中一貫教育公開研究を実施しました。今年度は、安田小学校の5・6年生も吉舎中学校で、公開授業を行いました。小学生も慣れない中学校での授業でしたが、よく頑張りました。今年度は、全員が授業を同じ視点で見るという事をつなげてきました。また、1年間の取組（授業・行事等）をつなげていく事に取り組んでいます。この研究会でも、この取組が生きていたと思います。



安田小学校 算数



吉舎中学校 数学

○アンケートより

研究会終了後に提出していただいたアンケートより、多くの貴重な意見をいただき、これからの取組の方向性が見えてきたように思います。小中共通して課題としてあげられるところは、①つなぎ発言、②話し過ぎ、③生徒の思考を深める発問、④共同的な学び、⑤目当てに対する評価、⑥まとめの部分です。特に、③と④はしっかりできるようにならないと、「より主体的な深い学びの授業」に、繋がらないので、今後はこの2点に重点を置き取組を継続していきたいと考えています。

・・・杉田郁代先生講演より

①課題発見一問いのもたせ方

- ・生活に根差したよい教材選択（具体の写真）⇒家での話題にもなり、学んだことを生活に生かせる。
- ・ねらいがはっきりしていた。また、自ら課題解決していく工夫があった。
- ・指導者が、どのような力を付けたいかを明確にし

ていた。

②自立解決—根拠・数学的用語等を用いてのノートづくり

- ・数学的用語（表・グラフ・方程式）を掲示し、それを説明やまとめの際に活用させたい。
- ・個の思考を確認し、赤ペンでメモするなど、足跡を残しながら机間指導をする。

③集団解決—聴き合う授業づくりの工夫

- ・協同学習では、発話数からも、グループの構成人数は、4人より3人の方が効果的。
- ・発表資料作成⇒個々のノートを共有、思考の交流をし、確認しながら作成していく。
- ・ノートを使いながら他者に説明する活動を大切に。⇒検討する時間を持つことが、深い学びにつながる。
- ・考えを自分のノートにも書き写す時間を確保する。

④振り返りのさせ方

- ・使わせたい『つなぎ発言』を可視化し、何回使えたかを“振り返り”の中に入れるなどして、指導し切る。

◆夏の模擬授業や小学校での研究授業を参観し、小中での取組が同じ視点で行われていた。

目指す姿（自学力をつける）が明確であり、評価ができる。

◆自学力とは・・・

自学力は6つの感情から成り立っている。

- ①自己有用感（役に立ったぞ！）
- ②学習性無力感（何度やってもできない・・・）
- ③自尊感情（じぶんならできるぞ！）
- ④劣等感（ノートを見せたくない・・・）
- ⑤自己効力感（できるかもしれない！）
- ⑥完璧（完璧にしなければ！）



大切なのは このような 心 に

どう火をつけるか。どう種まきをするか。

○自学力を伸ばす感情…①③⑤を感じさせる。

○自学力をはばむ感情…②④⑤を取り除き、①③⑤にチェンジしていく教育的営みをしよう。

これらの取組を、次回2月16日の吉舎小での小中合同研修会につなげ、継続して取組でいきましょう。